

金融不安の落ち着きで見直し機運高まる米国株



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米国株に対する見直し機運高まる

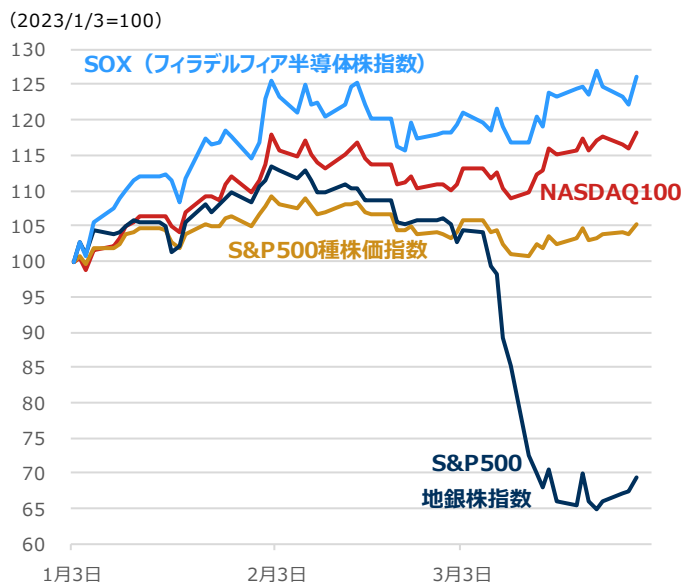
3月に入り米金融機関が複数破綻したことで、米国では金融システム不安が高まっていた。ただ、米当局による迅速な対応もあり、12日に破綻したシグネチャー・バンクを最後に金融機関の破綻は起きておらず、米国株市場は落ち着きを取り戻しつつあります。実際、米金融機関の破綻で大幅に下落したS&P500地銀株指数は、底打ちの動きとなってきました（右上図）。米主要株価指数は堅調な展開が続いており、ハイテク株主体のNASDAQ100は29日に2月につけた戻り高値を終値ベースで上抜けるなど、米国株に対する見直し機運が高まってきたといえます（同図）。

ポイント② 過度な弱気心理の揺り戻しの可能性

FRB（米連邦準備制度理事会）が米金融機関に提供している2つの貸出制度の活用が進んでおり、金融システム不安の拡大に歯止めがかかっていることが市場に安心感を与えていると考えられます。従来からある連銀窓口貸出制度を通じた米金融機関の借入残高は15日時点で1,529億米ドルと過去最高を更新し、22日時点では新たに導入された貸出制度との合計で1,639億米ドルもの流動性供給が行なわれています。

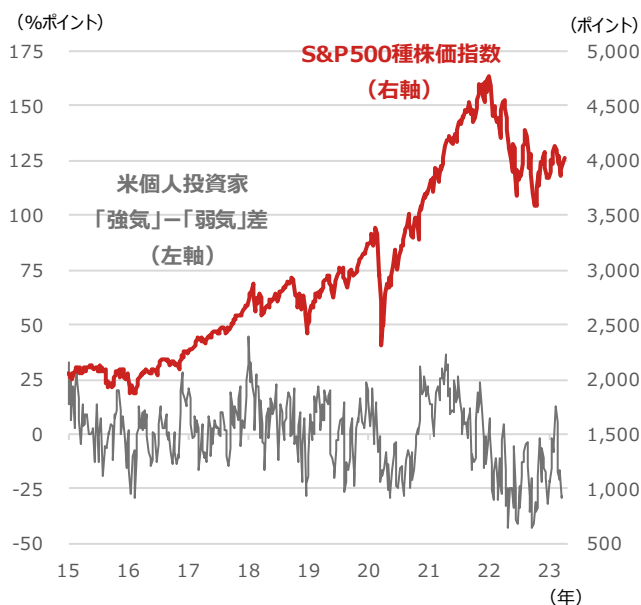
今後は米金融システム不安への懸念から、米国株に対して弱気姿勢を強めていた米個人投資家の買い戻しが期待できそうです。米個人投資家のセンチメント指標をみると、「強気」から「弱気」を差し引いた数値は▲28.0%ポイントとなっており、過度に弱気に傾いているといえます（右下図）。米金融不安の落ち着きが続くのであれば、悲観からの揺り戻しが起きやすいとみられ、米国株は堅調な展開が続く可能性があります。

米主要株価指数とS&P500地銀株指数



期間：2023年1月3日～2023年3月29日、日次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500と米個人投資家「強気」-「弱気」差



期間：(S&P500種株価指数) 2015年1月2日～2023年3月29日、週次
(米個人投資家「強気」-「弱気」差) 2015年1月1日～2023年3月23日、週次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全体の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される場合があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。